

参考様式

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時 : R7 年 4 月 1 日 午前・午後 2 時調査者氏名 : 浜 田 太 郎

I) 建築物の概要

1. 建築物の所有者 : 浜 田 太 郎
2. 建築物所在地 : 浜田市殿町 1 番地
3. 階 数 : 2 階

II) 前提条件の確認 (いずれも必須)

チェック欄

木造住宅である	該 当
昭和 56 年 5 月 31 日以前に新築の工事に着手した	該 当

III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外（玉石、石積み、ブロック等）である	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	該 当
老朽・不朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

IV) 壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が 0.8 未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

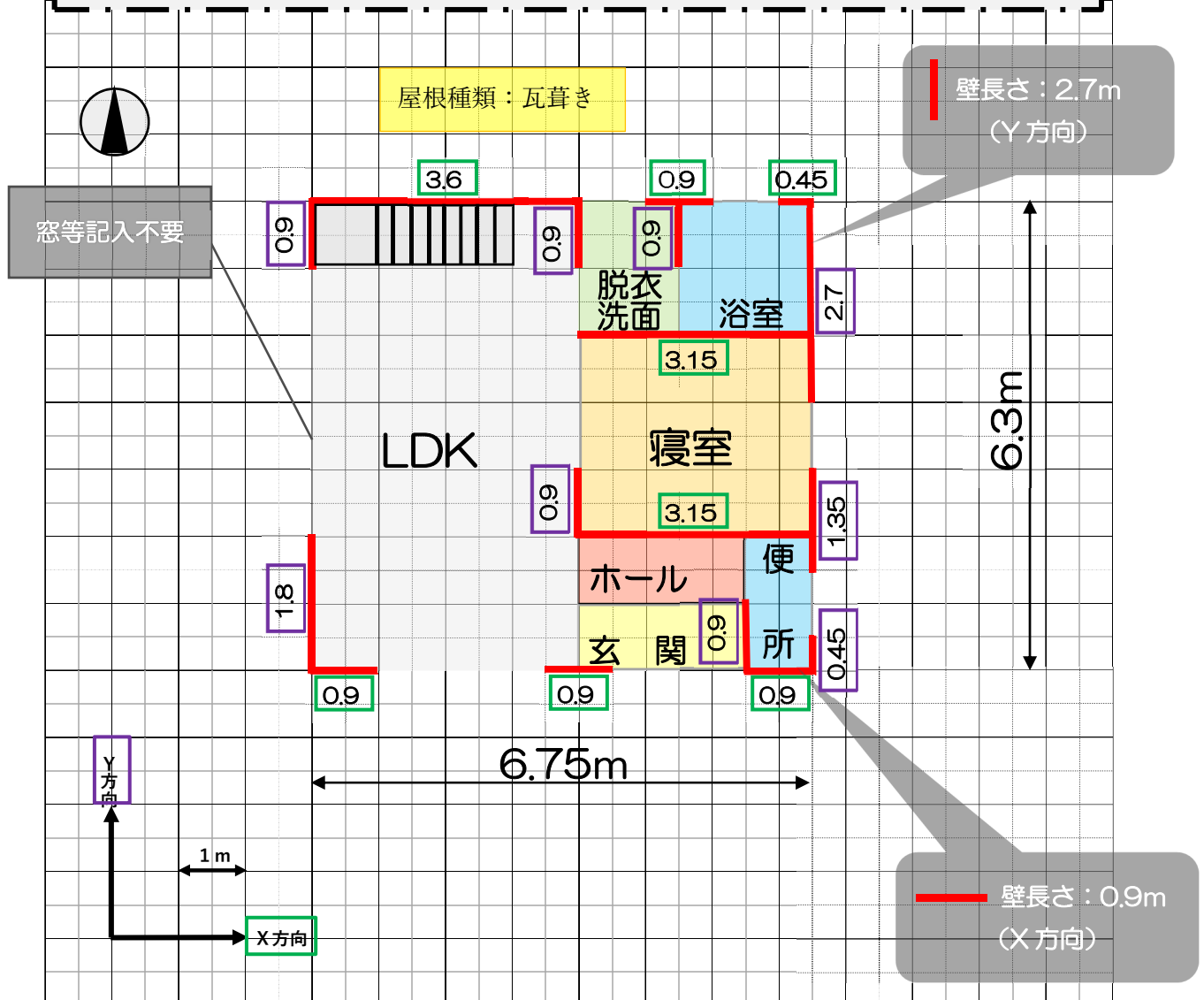
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ) 壁の割合
方向	壁の長さ (m)	建面 (m ²)	イ/ロ	必要値	ハ/ニ
X	13.95	42.52	0.33	0.59	0.55
Y	10.8	42.52	0.26	0.59	0.44

IV) 壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

【記入方法】

- 壁の長さを計測してください。
- 5mm方眼です。
- 1cmで0.9m（又は1.0m）として記入してください。
- 窓、ふすま、障子、ドアなどの開口部は記入不要です。
- 2階建ての場合は1階部分のみ記入してください。
- 各部屋の用途を記入してください。
- 全ての部屋（各部屋1枚程度）の内観写真を提出してください。
- 屋根の種類がわかる外観写真を提出してください。



壁長さ累計	X方向	$3.6+0.9+0.45+3.15+3.15+0.9+0.9+0.9 = 13.95\text{m}$
	Y方向	$1.8+0.9+0.9+0.9+0.9+0.9+0.45+1.35+2.7=10.8\text{m}$

X方向の壁長さ（累計）を記入

（イ）壁の長さの合計

① X（横）方向

①
13.95 m

② Y（縦）方向

②
10.8 m

① ②のうち小さいほうを記入してください

イ
10.8 m

Y方向の壁長さ（累計）を記入

（ロ）面積

ロ
42.52 m²

1階の面積（6.75m×6.3m）

※小数点第3位 切捨て

（ハ）単位面積あたりの壁の長さ

イ
10.8

÷

ロ
42.52

=

ハ
0.26

（ニ）必要な壁の長さ

ニ
0.59 m

※小数点第3位 切上げ

下の表から該当するものを選んで記入してください。

屋根の種類	平 家	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

（ホ）壁の割合

ハ
0.26

÷

ニ
0.59

=

ホ
0.44

※小数点第3位 切捨て